

nosae)の根で、しばしば周皮を除いたものである。

性状 本品は円柱形を呈し、長さ5～20 cm、径2～3 cm、外面は暗褐色～黄褐色で、著しい縦じわがあり、また横長の皮目を認める。周皮を除いたものは黄白色で、表面は多少繊維性である。横切面は淡黄褐色で、皮部の厚さ0.1～0.2 cm、形成層付近はやや暗色を帯び、木部との間にすき間を生ずるものがある。

本品はわずかににおいがあり、味は極めて苦く、残留性である。

確認試験 本品の粉末0.5 gに希酢酸10 mLを加え、時々振り混ぜながら水浴上で3分間加熱し、冷後、ろ過する。ろ液5 mLにドラーゲンドルフ試液2滴を加えるとき、直ちにだいたい黄色の沈殿を生じる。

純度試験

(1) 茎 本品は茎10.0%以上を含まない。

(2) 異物 本品は茎以外の異物1.0%以上を含まない。

灰分 6.0%以下。

酸不溶性灰分 1.5%以下。

クジン末

Powdered Sophora Root

SOPHORAE RADIX PULVERATA

苦参末

本品は「クジン」を粉末としたものである。

性状 本品は淡褐色を呈し、わずかににおいがあり、味は極めて苦く、残留性である。

本品を鏡検するとき、でんぶん粒及びこれを含む柔細胞の破片、繊維の破片、有縁孔紋及び網紋道管の破片を認め、その他少数のコレク組織の破片、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。でんぶん粒は、通例、2～4個の複粒で、径15～20 μm、単粒は径2～5 μmである。

確認試験 本品0.5 gに希酢酸10 mLを加え、時々振り混ぜながら水浴上で3分間加熱し、冷後、ろ過する。ろ液5 mLにドラーゲンドルフ試液2滴を加えるとき、直ちにだいたい黄色の沈殿を生じる。

灰分 6.0%以下。

酸不溶性灰分 1.5%以下。

苦味チンキ

Bitter Tincture

TINCTURA AMARA

製法

トウヒ、粗末	50 g
センブリ、粗末	5 g
サンショウ、粗末	5 g
70 vol% エタノール	適量
全量	1000 mL

以上をとり、チンキ剤の製法により製する。ただし、70 vol% エタノールの代わりに「エタノール」及び「精製水」適量を用いて製することができる。

性状 本品は黄褐色の液で、芳香があり、味は苦い。

比重 d_{20}^{20} : 約 0.90

確認試験

(1) 本品1 mLにメタノール5 mLを加え、リボン状のマグネシウム0.1 g及び塩酸1 mLを加えて放置するとき、液は赤紫色を呈する。

(2) 本品を試料溶液とする。別に「トウヒ」を粉末とし、その5.0 gに薄めたエタノール(7→10)100 mLを加え、密栓して30分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を標準溶液(1)とする。更に「センブリ」及び「サンショウ」をそれぞれ粉末とし、その0.5 gずつにつき同様に操作し、標準溶液(2)及び標準溶液(3)とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液、標準溶液(1)、標準溶液(2)及び標準溶液(3)10 μLずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル(混合蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール(95)/水混液(8:2:1)を展開溶媒として約10 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(広域波長)を照射するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち3個のスポットは、標準溶液(1)から得た数個のスポットのうち R_f 値0.4付近に明瞭に現れる青色～紫色を呈する近接した2個のスポットの上側のスポット、標準溶液(2)から得た R_f 値0.35付近に明瞭に現れる赤色を呈するスポット及び標準溶液(3)から得た R_f 値0.7付近に明瞭に現れる灰赤色～赤色を呈するスポットと色調及び R_f 値が等しい。

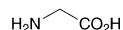
アルコール数 6.9以上(第2法)。

貯法 容器 気密容器。

グリシン

Glycine

アミノ酢酸



$\text{C}_2\text{H}_5\text{NO}_2$: 75.07

Aminoacetic acid [56-40-6]

本品を乾燥したものは定量するとき、グリシン($\text{C}_2\text{H}_5\text{NO}_2$)98.5%以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は甘い。

本品は水又はギ酸に溶けやすく、エタノール(95)にほとんど溶けない。

確認試験 本品を乾燥し、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。もし、これらのスペクトルに差を認めるときは、本品を水に溶かし、蒸発乾燥したのにつき、同様の試験を行う。

pH 本品1.0 gを水20 mLに溶かした液のpHは5.6～6.6である。

純度試験

(1) 溶状 本品1.0 gを水10 mLに溶かすとき、液は